

越生町立小中学校二学期制継続検証委員会調査審議
答申（案）

令和5年2月

越生町立小中学校二学期制継続検証委員会

目次

1	はじめに	1
2	答申	
(1)	主に越生町立小中学校二学期制の成果として考えられるもの	2
(2)	越生町立小中学校二学期制の実施にあたり、一部対応が必要と考えられるもの	3
(3)	アンケートの実施について	4
(4)	越生町立小中学校二学期制継続検証委員会調査審議における結論	4
(5)	提言	5
3	おわりに	6
4	資料等	7

1 はじめに

越生町立小中学校の二学期制は、国が示す学習指導要領の授業時数の増加等に対応するため、平成19年度より開始され、15年を経過している。二学期制を導入することにより、授業時数を確保するとともに、これまで学校で行っていた体験活動等を大幅に削減することなく教育活動を展開することが可能となっている。

これまで越生町の二学期制は、教科の授業だけでは育成することのできない内容として、特色のある体験活動や学校行事の充実を図ったり、日没が早くなる時期の1日の授業時数の削減をすることによる安全面の配慮などを行ったりして定着されてきた。一方、一部の保護者からは、他の三学期制を実施している学校との比較をとおして、複数の不安や実施にあたっての課題が出されていた。それらを受け、各学校では、夏休み前の成績証を配布したり、夏休み中に子供たちが目標をもって過ごせるようにするために面談等をより充実させたりするなど、改善の取組を講じながら、二学期制を継続してきた。

このような状況を踏まえ、越生町立小中学校二学期制継続検証委員会は、越生町教育員会教育長の諮問を受けて二学期制の実施状況並びに成果及び課題に関することや、今後二学期制を継続していくことに関して、様々な立場の委員の意見等をとおして調査審議を行ってきた。

ここに、令和3年12月から令和5年2月までの全4回の検証委員会での調査審議を踏まえ、この答申をまとめ、越生町教育員会教育長へ報告するものとする。

令和5年2月 日
越生町立小中学校二学期制継続検証委員会
委員長 青柳 高

2 答申

(1) 主に越生町立小中学校二学期制の成果として考えられるもの

子供と触れ合う時間の確保に関する視点

- ・ より授業時数が確保できることによって、先生たちや子供たちにゆとりが生まれ、教育相談の時間など、先生たちが子供たちに対応する時間が多く取られ、関係性も良好に保たれると考えられる。

子供の学力・体力向上に関する視点

- ・ 通知票の作成が1回少なくなることにより、通知票作成に費やす時間を確保する必要がなく、新体力テスト、運動会等の練習や夏休み前の水泳指導などが充実していると考えられる。
- ・ 授業時数等を確保できているため、学力向上、体力向上への取組を行うための教育環境が整っていると考えられる。

子供たちの安全に関する視点

- ・ 小学校では、日没が早くなる時期に6時間授業を5時間授業で対応することができるため、下校時の安全面への配慮ができていると考えられる。

教職員の職務の質の向上や働き方改革に関する視点

- ・ 通知表や会計処理が1回減るだけでも、教材研究・授業準備の時間が増え、その分子供たちにも授業の充実として還っていくと考えられる。
- ・ 職員に関しては、朝部活動等の関係で7時前に出勤し、夏場では18時まで部活で子供たちを見て、そこから授業準備したり小テストの採点をしたりすることで、帰りが20～21時になっている職員が大勢いる現状がある。12月に通知表作成がないことで、職員にゆとりができており、それが子供に対応する時間に繋がっていると考えられる。
- ・ 教員、子供たちの視点で考えることが重要であり、現状二学期制が越生町に根付いている。働き方改革が叫ばれている昨今の社会情勢において二学期制により、ゆとりを大切にすべきであると考えられる。

(2) 越生町立小中学校二学期制の実施にあたり、一部対応が必要と考えられるもの

学校の行事等（教育課程）の編成に関する視点

- ・ 学習指導要領が示す教科等の授業時数が増えている中において、学校行事を極端に減らすことなく、特色ある体験活動など、教科等の授業だけでは育成することのできない教育活動が圧倒的に充実していると考えられる。
- ・ 感染症の拡大が懸念される中において、万が一臨時休校を行っても、冬休みや春休みに授業を行う心配をせず、教育課程を編成できると考えられる。
- ・ 三学期制の学校では、特に5月中旬の年度初めの定期テスト（1学期中間テスト）の出題範囲が狭く、生徒の学力をうまく評価できないが、越生中学校で行われる6月の年度初めの定期テスト（前期中間テスト）であれば、十分に評価できると考えられる。
- ・ 定期テストが1回少ないことで、部活動の活動日数を確保できると考えられる。
- ・ 中学校における定期テストの回数が1回減ることで、その分のテストの出題範囲が広がると考えられるが、出題範囲が三学期制の学校に比べて広いのは、6月の年度初めの定期テスト（前期中間テスト）であり、生徒の学力を図るには、適正な出題範囲と考えられる。
（対応）今後もテストの出題範囲が三学期制の学校と比べ若干広くなると考えられる9月の期末テストでは、夏休み前に出題範囲を示し、計画的にテスト勉強に取り組めるようにする。

私立高校入試の相談会に参加する際の資料が不足することに関する視点

- ・ 8月中に確約といわれるような相談ができないと不安が生じるが、10月中旬に通知表がもらえた段階で相談会に行くことで十分間に合うと考えられる。
- ・ 夏休みの相談会では、通知表を提示することができず、通知表を提示できた場合と比べて不利なのではないかと不安を抱くことが考えられる。
- ・ 夏休み前に通知票が出ないことで受験校に向けた指針が立てにくいと考えられる。
（対応）今後も夏休み前成績表を配布し、参考資料として高校に持参し提示できるようにする。また、二学期制を実施する中学校の生徒が私立高校に入学することについて不利益が生じないために私立高校と中学校とで共通理解を図る。
（対応）学期制関係なく、進路に関して保護者の心配はあると思うが、早い時期に進路を決めてしまいその後の学校生活等において生徒が目標を失ってしまうこともあるため、今後も担任との面談を充実させ、目標をもって受験勉強が行われるよう、しっかりと受験校を決定させていく。また、私立高校や保護者の要望があれば対応していく。

学期や長期休業前の切り替えに子供たちが目標をもって取り組むための視点

- ・ 前期、後期の切り替えが難しいと考えられる。
- ・ 子供たちが、夏休み前に通知表がもらえないため、目標をもって夏休みを過ごせないと考えられる。
- ・ 夏休み前に通知表がもらえないことで、けじめがつかない、通知表があった方が目標をもって夏休みを過ごしやすいかもしいないが、これらの課題については、家庭での取り組み方で対応できると考えられる。
（対応）今後も夏休み前成績表の配布や夏休み前までに行ったテスト結果等を示し、夏休みの前の子供たちや保護者との面談を充実させ、課題を共有して目標を持たせる。

二学期制の実施について、これまでの成果等を広く知ってもらう視点

- ・ 越生町が実施している二学期制のことを全面的に特色として出し、越生町の小・中学校に通わせたいと思う人が出るくらい成果をアピールすることが必要であると考えられる。
(対応) 新たに小中学校に入学する保護者にこれまでの二学期制の実施内容や成果を就学時健康診断、入学式、保護者会、広報おごせへの掲載等の機会をとおしてお知らせし、理解をいただく。また、町民に対しても二学期制継続検証委員会の調査審議の内容を越生町のホームページなどで広報していく。
- (対応) 今後の社会的背景等を鑑み、今後も議論が必要である。また、今ある二学期制をより充実させていく必要があると考えられる。

(3) アンケートの実施について

実施するべきという考えについて

- ・ 実態を調査するために児童生徒や卒業生の保護者を含みアンケートを実施すべきと考えられる。
- ・ 令和2年度の学校評価等では、三学期制への要望もある。少数であるが、落とさずに議論すべきであると考えられる。

実施する必要はないという考えについて

- ・ 在籍の児童生徒へのアンケートは容易であるが、地域等へのアンケートは、周知配布等の課題があり、公平性に欠けると考えられる。
- ・ 調査の目的の説明、児童生徒の発達の段階を考慮すると実施は困難と考えられる。調査方法によっては、今の二学期制の良さを欠く可能性があると考えられる。
- ・ 本検証委員会は、学校関係者、地域、有識者等の委員会であると考えたとの本会の意見は重要と考える。本会の答申で十分であると考えられる。

アンケートの実施についての方向性

- ・ アンケートを実施すべきという意見がある一方で、調査の目的の周知等課題が多く、公平性を保つことが非常に困難であるというから、現時点では、実施を見送る方向性の意見が大半を占めたと考えられる。

(4) 越生町立小中学校二学期制継続検証委員会調査審議における結論

本検証委員会では、これまで調査審議の結果、子供と触れ合う時間の確保に関する視点、子供の学力・体力向上に関する視点、子供たちの安全に関する視点、教職員の職務の質の向上や働き方改革に関する視点等を踏まえ、次に掲げる提言を踏まえた実効策を講ずることを教育長及び学校に要望し、今後の社会情勢や教育改革等を注視しつつ、今ある二学期制をより充実させ、今後も、二学期制を継続していくことが適当と結論する。

(5) 提言

① 学校の行事等（教育課程）の編成に関する提言

提言 1

今後もテストの出題範囲が三学期制の学校と比べ若干広くなると考えられる9月の期末テストでは、夏休み前に出題範囲を示し、計画的にテスト勉強に取り組めるようにする。

委員会では、中学校における定期テストの回数が1回減ることで、その分のテストの出題範囲が広がると考えられるとの意見があった。これらを踏まえ、三学期制の学校と比べ若干広くなると考えられる9月の期末テストでは、夏休み前に出題範囲を示し、計画的にテスト勉強に取り組めるようにすることなどの実効策を講じていくことを提言する。

② 私立高校入試の相談会に参加する際の資料が不足することに関する提言

提言 2

今後も夏休み前成績表を配布し、参考資料として高校に持参し提示できるようにする。また、二学期制を実施する中学校の生徒が私立高校に入学することについて不利益が生じないために私立高校と中学校とで共通理解を図る。また、今後も担任との進路面談を充実させ、目標をもって受験勉強が行われるよう、しっかりと受験校等を決定させていく。

委員会では、私立高校の夏休みの相談会で、通知表を提示することができず、通知表を提示できた場合と比べて不利なのではないかと不安を抱くことが考えられることや、夏休み前に通知票が出ないことで受験校に向けた指針が立てにくいと考えられるなどの意見があった。これらを踏まえ、夏休み前成績表を配布し、参考資料として高校に持参し提示できるようにし、二学期制を実施する中学校の生徒が私立高校に入学することについて不利益が生じないために私立高校と中学校とで共通理解を図ること、また、今後も担任との面談を充実させ、目標をもって受験勉強が行われるよう、しっかりと受験校を決定させていくなどの実効策を講じていくことを提言する。

③ 学期や長期休業前の切り替えに子供たちが目標をもって取り組むための提言

提言 3

今後も夏休み前成績表の配布や夏休み前までに行ったテスト結果等を示し、夏休みの前の子供たちや保護者との面談を充実させ、課題を共有して目標を持たせる。

委員会では、前期、後期の切り替えが難しいことや、夏休み前に通知表がもらえないため、目標をもって夏休みを過ごせないなどの意見があった。これらを踏まえ、今後も夏休み前成績表の配布や夏休み前までに行ったテスト結果等を示し、夏休みの前の子供たちや保護者との面談を充実させ、課題を共有して目標を持たせるなどの実効策を講じていくことを提言する。

④ 二学期制の実施について、これまでの成果等を広く知ってもらおう提言

提言 4

新たに小中学校に入学する保護者や町民に対して、これまでの二学期制の実施内容や成果を様々な機会をとおしてお知らせし、理解を図る。

委員会では、越生町が実施している二学期制のことを全面的に特色として出し、越生町の小・中学校に通わせたいと思う人が出るくらい成果をアピールすることが必要であることの見があった。これらを踏まえ、新たに小中学校に入学する保護者にこれまでの二学期制の実施内容や成果を就学時健康診断、入学式、保護者会、広報おごせへの掲載等の機会をとおしてお知らせし、理解を図ることや、町民に対しても二学期制継続検証委員会の調査審議の内容を越生町のホームページなどで広報していくなどの実効策を講じていくことを提言する。

3 おわりに

本検証委員会では、これまでの越生町立小中学校の二学期制に係る成果及び課題に関する事項や二学期制を今後継続するかについての事項等について調査審議を重ね、課題等一部対応が必要と思われる内容を「提言」し、これまでの結果を答申した。

今後、答申を受け、教育長及び学校が二学期制の継続について定めるものであるが、結論でも申し上げたとおり、今後の社会情勢や教育改革等を注視しつつ、越生町の子供たちにとってより充実させた教育活動が展開できるよう、努めていただきたい。

結びに、この答申を踏まえ、各学校においてはこれまでの二学期制の効果が最大限に発揮されるよう教育施策を充実していくことを強く望む。

越生町立小中学校二学期制継続検証委員会一同